

キーワード：

呼吸
意識
香

聖なる言葉

カリグラフィー

抄録

作品サイズ：H 6 × W 450 × D 450 (mm)

素材：香粉末 セラミックブランケット

発表場所：「Breathing Space」展 Wilfrid Israel Museum, イスラエル

発表期間：2019年11月9日(土)～2020年2月15日(土)

Wilfrid Israel Museum はイスラエル北部、Hazorea というキブツ (イスラエルにおける集産主義的共同組合) 内にある。この美術館のキュレーターからの依頼で、「Breathing Space」という展覧会のための作品を制作し、出品した。(写真1、2)

キュレーターによる展覧会コンセプトは以下の通りである。

「呼吸は人が存在するうえで当たり前のことであり、意識していなくてもあらゆる瞬間に起こることである。アジアの伝統の中で、呼吸は数多くの肉体的、精神的な修行の中心であり、体と心に関連づけ、現在という瞬間に意識を向かわせ、自己の内へと反映させる。私たちの時代の速いリズムは緊張と圧力を生み出し、断続的に成長し続けている。我々は稀に一瞬だけそれを止めることができ、休息、吸収、白日夢、何もしない状態に戻ることができる。時々、これらの瞬間はインスピレーションや新しいアイデア、あるいはおそらく平和をもたらす。人は内面を見つめることで呼吸のための余地を見出すことができるのだ。この展覧会は、私たちの人生におけるそれらの瞬間と重要性に気づかせるかのように私たちに誘うであろう。呼吸のための空間は私たちがゆっくりと、またこの瞬間に存在することを可能にする。展示作品は鑑賞者に止まること、速度を落とすこと、反応に関しての視覚的、空間的体験を提供するであろう。」

作品は線香の粉末を原料とし、ポットミルで粉砕したのち水を加えて乳鉢でさらに細かくしたものを使用した。(写真3、4)

練った原料を友禅染めで用いられる筒描きの要領でセラミックブランケットの上に直接描いていく。乾燥後に火を付ける際に、保温性と耐熱性が要求されるため、6mmの厚みのものを切断し、支持体とした。描く文字、図柄はプロジェクターで投影してその上をなぞるように描き、それぞれの文字が繋がるようにデザインした。(写真5、6、7)

展覧会場でこれらの作品を台上に展示し、火をつけて香りを発しながら煙の痕跡を残していく。茶色に縁取られた煙の痕跡の上に灰となった文字が残されていくという作品である。(写真8、9)

モチーフは古今東西の宗教の中に見られる呼吸に関する記述とビジュアルイメージであり、それぞれの言語特有の文字デザインを造形化している。展覧会コンセプトにもあるように、呼吸という生命活動が人の精神活動と密接に関連しているという普遍性を見ることができる。以下に各作品の文字・デザインについての解説を加える。

①旧約聖書 『創世記 第2章第7節』

「そのとき、ヤハウェ神は土くれで人の形を造り、鼻の孔に生命の息を吹き込んだ。すると人は生きものとなった。」(写真10)

②古代ギリシア Amaximenes(B.C.560-500)

空気である私たちの魂が、私たちをしっかりと掌握しているのと同じように、氣息と空気が宇宙全体(自然万有)を包み囲んでいる。空気は物体をもたないものに近い。そして、私たちはこのもの(空気)の流出によって生じるにいたるのだから、そのものは、無限であって豊かであるはずである。絶対に尽きることはないのだから。(写真11)

③イスラム神秘主義スーフィーの詩人 Ibn Abi el Hair

この瞬間は2つの呼吸の間にある。

1つはすでに通過し、もう1つはまだ来ていない。昨日は過ぎ去り、明日はまだ隠れている。あなた自身はあなたの存在の瞬間そのものなのである。(写真12)

④道元 『普勸坐禅儀』

「鼻息微通。身相既調、欠氣一息、左右搖振。兀兀坐定、思量箇不思量底。不思量底、如何思量、非思量、此乃坐禅之要術也。」

鼻息(びそく)、微かに通じ、身相(しんそう)既に調へて、欠氣一息(かんきいっそく)し、左右搖振(ようしん)して、兀兀(ごつごつ)として坐定(ざじょう)して、箇(こ)の不思量底を思量せよ。

不思量底（ふしりょうてい）、如何（いかん）が思量せん。非思量。此れ乃ち坐禅の要術なり。

（現代語訳）

呼吸は鼻で静かに行い、体の形を整えたら深く深呼吸を行う。体を左右に振り、徐々に重心をとらえるようにする。動かざる山のように座禅する形を定めて、思量しないとは何なのかを思量せよ。思量しない世界をどうやって思量するのか。思量という範疇を逸脱することである。このことが座禅において肝要な点である。（写真 13）

⑤ Lung Butterfly

肺の気管図を合成して描いた蝶の図である。気象学者エドワード・ローレンツが提唱したバタフライ効果を引用している。中国における気という概念は、マクロコスモスとしての自然（気象）とマイクロコスモスとしての人（呼吸）を一つのつながりのあるものととらえている。（写真 14）

⑥ 篆書体の「息」

古代中国の篆書体で、上半分は鼻を、下半分は心臓を意味している。心臓から鼻へと息が送り出される様子が形となっている。（写真 15）



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8



写真9



写真 10

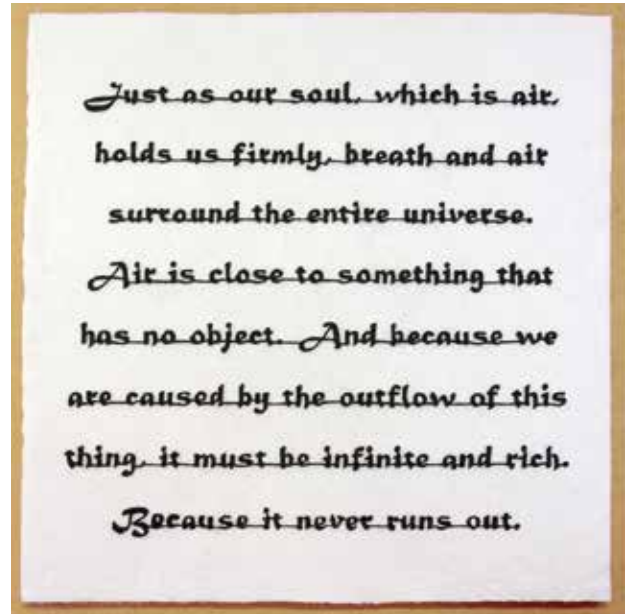


写真 11



写真 12

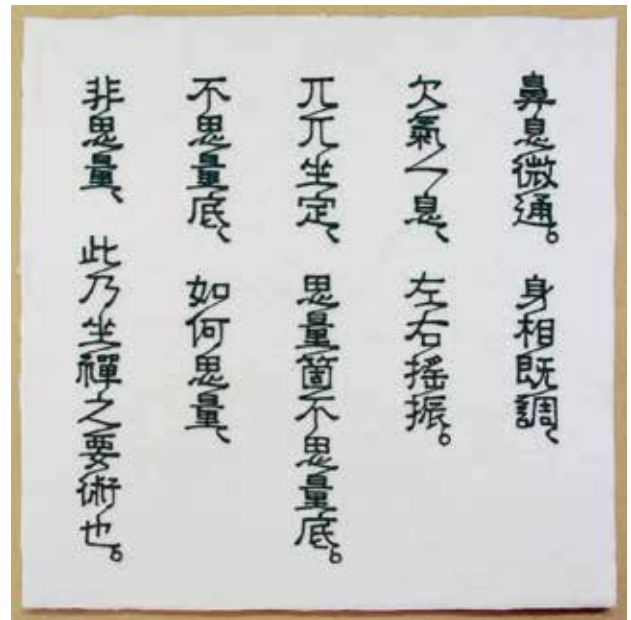


写真 13

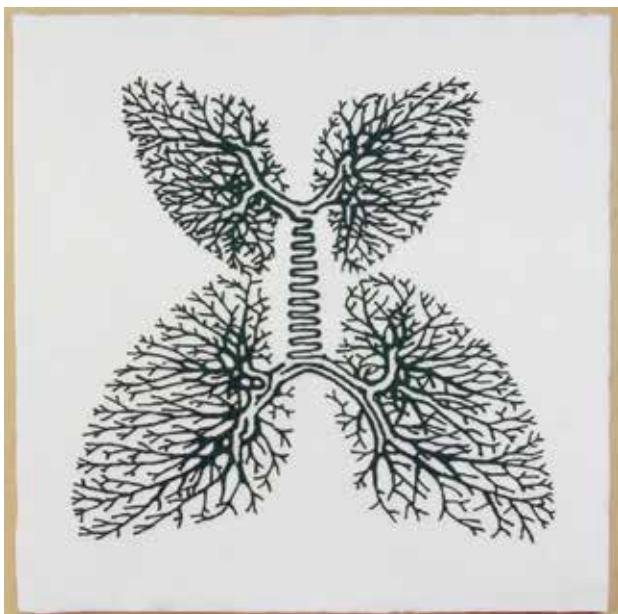


写真 14

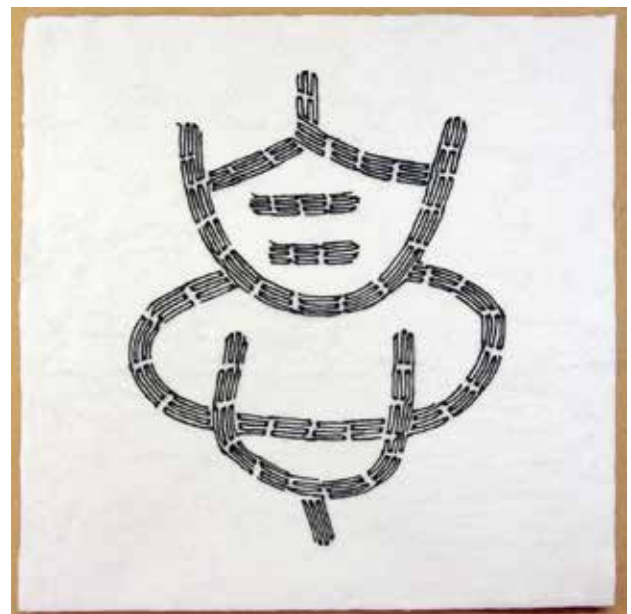


写真 15

